

教育委員会だより

第24号 (令和元年8月~11月)

発行者
池田町・養基組合教育委員会
池田町六之井1468-1
tel.0585-45-3111 fax.0585-45-8314
e-mail yakuba@town.gifu-ikeda.lg.jp

2学期制と夏休み短縮の実施

来年度より、小学校の2学期制と小・中学校の夏休み短縮を実施します。

来年度から小学校では、新学習指導要領による授業が始まり、3・6年生において年間35時間の授業時数増となります。これを受けて、学期の3学期制から2学期制への移行による学校行事等の見直しと、夏休みの短縮を実施し、時数を確保し、子ども達の学校生活に無理が生じないようにします。

2学期制については、左記の表のように実施し、学期間の休業日は、10月第2月曜日を含む土・日・月曜日の3日間とします。
夏休みは、8月末に平日の3日間を短縮します。中学校においても、緊急時の対応等にゆとりを持たせるため、小学校と同様に実施します。来年は、夏休みは7月21日(火)から8月26日(水)となります。

幸い、町では平成26年度より教室の空調整備を進めており、本年度全ての学校で完了し、暑さ対策にも対応できます。
なお、8月末の休日の関係

現 在		来 年 度	
一学期	4月1日から7月31日	前期	4月1日から 10月第2月曜日
二学期	8月1日から12月31日		後期
三学期	1月1日から3月31日		

により、年によって夏休みの最終日は変わります。

プログラミング教育

来年度から小学校では、新学習指導要領による授業が始まります。

今回の改訂で大きく変更される点は3つあります。

1. 英語科の新設(5・6年生)
2. 道徳の教科化
3. プログラミング教育の導入

このうち池田町におけるプログラミング教育導入に向けた取り組みについて紹介します。

文部科学省のプログラミング教育の手引き第二版(平成30年11月)が公表されたことを受け、今後のプログラミング教育のあり方について検討を進めました。平成31年3月には情報関係に詳しい先生を招き、何を学習し・どのように進めていく



プログラミングに取り組む八幡小6年生

か等の助言を頂き、基本方針と今後の進め方の理解を深めました。
基本方針として、小学校5年生を中心にカリキュラムを作成し、総合の時間を

利用することにより「プログラミング的思考」の育成に向けた授業を実践することとしました。

5月には、情報担当教諭を中心に学習カリキュラムを作成し、6月25日にカリキュラムに沿った授業を八幡小学校5・6年生に実施しました。その後、9月下旬より12月までの3ヶ月間で他の小学校の5・6年生にも授業を実施し、来年度の本格実施に向けた準備を行っているところであります。

また、施設面で校内のWi-Fi環境整備を8月末までに完了し、情報機器の作動環境を構築しました。

全国学力・学習状況調査

4月18日に小6、中3を対象に全国学力・学習状況調査が実施されました。

この調査は、教科に関する調査(小学校は国語・算数、中学校は国語・数学・英語)と学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査があり、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的にしています。

教科に関する調査について県の平均正答率と比較すると、小学校の国語は低い、算数はやや低い。中学校の国語と数学はやや低い、英語はほぼ同じでした。

また、質問紙調査の結果は次のようでした。「地域や社会に関わる活動の状況」「学習に対する

る興味・関心や授業の理解度」については高く、「挑戦心、達成感、自己有用感」「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」はやや高いという結果でした。

一人一人が活躍できる場の設定や認め励ましにより自分に自信をもつ児童生徒が増え、集団での生活をよりよくし充実させようとする気持ちが育ってきています。また、児童生徒は地域との関わりを大切に思っています。これは、地域全体で子どもを育てていただいていることによるものと考えます。

今後も、より深い話し合いを生み出せるようにしたり、一人一人の学びや伸びを確実に見届けたりするなどの授業改善を進めていきます。

スクールフォーラム

8月3日、中央公民館で、「豊かに生きる ～英語教育・福祉教育・キャリア教育を通して～」をテーマに「いけだスクールフォーラム」を行いました。当日は、317人と多くの方に見ていただくことができました。

英語活動発表では、温知小が、「Who am I?」クイズを行い、池田中がニュージールランド派遣研修報告をしました。児童生徒が、英語を使って一生懸命に伝える姿は素敵でした。

福祉活動発表では、八幡小が、福祉活動「ともに生きる」について発表しました。また、池田中が、福祉部の活動と校外ボランティア活動について発表しました。小中ともに地域の一員、地域とのつながり、地域を支えるなど、人とふれあいながら自分も成長したいという力強



温知小のクイズの様子

を感じました。

キャリア教育発表では、池田高が、「学校を飛び出して、地元で活躍する大人を取材しよう」の課外授業から学んだことを発表しました。学んだことは、次のステップにつながっていくことと思います。

続いて、「小・中・高等学校を通じた教育と英語」の講演がありました。

地域の方からは、「発表者の一生懸命な姿が伝わってきた」「いろいろな体験をして考え行動することで、思いやりの心をもち成長していく姿を頼もしく思った」

「昨年に比べ、発表形式・内容が充実していた」などの声がありました。

い言葉が印象的でした。

サンビレッジ 国際医療福祉専門学校の学生が、「本当の自立支援」～車いすバスケツトボールを通して～と題して発表しました。その人の生き方を尊重し、相手の生き方に寄り添うという優しさで力強さ

寺子屋学習会



3時間の長い時間ががんばれました

8月7日～9日の午後1時から4時まで中央公民館を会場に、小学3年生～中学3年生の児童生徒の学習を支援する「寺子屋学習会」を行いました。

今年度は、100名程度の参加があり、小学校中学年高学年、中学生に分かれて学習しま

した。児童生徒は、その日に取り組みたい学習の予定を考え、教科書やノート・問題集など学習に必要なものを持参しました。それぞれの部屋では、指導の先生や池田高のボランティアの生徒に質問をする姿もありました。

参加した児童生徒からは「分からないことは、お兄さんやお姉さんにヒントをもらいました。いつもは1時間くらいしか勉強できないけれど、ここでは3時間の長い時間ががんばれました。」「高校生や大人の人に優しく教えてもらい参加してよかったと思います。学習会で教えてもらったところは、何度も復習して忘れない



お姉さんにヒントをもらう様子

ようにしたいです」などの感想がありました。どの子ども落ち着いた中で集中して学習を進めることができました。

国見町ジュニア応援団との交流

8月15日～17日に池田町の子ども達が国見町を訪問しました。大震災の時の様子や、町民一丸となったの復興への取組みは強く心に残りました。今も当時のまま残してある施設の一部は、震災の大きさを物語っていました。国見町は、町規模では全国一の桃の産地で、たわわに実った桃畑がひろがっていました。国指定の史跡である奥州藤原氏が源氏軍と戦った「あつかしやまの防塁」を見ることができました。

また、10月6日～7日の池田町の「ふるさと祭り」では国見町の子も達が訪れ、桃の販売や国見町の紹介をステージで発表してくれました。子ども達は池田山麓の古墳や茶畑、山頂から見るとした濃尾平野に歓声を上げていました。

若い人たちがお互いのふるさとを誇りに思い、過去から現在・未来へと繋げていくこと、また、地域同士が繋がることで広く豊かな視野を持ち、未来の街を造ってくれることを頼もしく思います。

学校訪問の実施

9月中旬から11月中旬にかけて、例年行われている西濃教育事務所による学校訪問が、各小中学校で実施されました。各校では全ての先生の授業を参観されることもに学校施設管理・各種帳簿類の監査も行われました。



宮地小での訪問の様子

授業参観後の講評では、「専門性のある学科では、子ども達がすぐく輝いている」との言葉を頂き、職員へのエールとして受け止めました。また、「子どもの『つぶやき』は認めるものの、積極的に挙手して発言させる場面を多くすることも大切」「子どもの『ハンドサイン』を見ながら、子ども達が同意し、多くを出し切れる授業に取り組む姿勢が大切」といった指摘も受けました。

施設管理では、避難口の状態、その動線上の棚等の固定状況も再確認されました。また、職員管理については、時間外労働の状況を確認し、改めて時間外労働時間の短縮と休日出勤の管理の徹底について指導されました。

教職員の時間外労働については、数年前より改善の必要性が求められ、町ではタイムレコーダーを利用した時間管理に努めてきました。「勤務時間の見える化」を行うと共に「残業アワー」を取り入れて「元氣・笑顔の職員」をめざし、今後も働き方改革を推進してまいります。

2校で合唱の発表会

10月25日に宮地小で合唱の発表会が行われました。いつもは静かな子が、音楽に合わせて一生懸命に大きく体を動かしている様子や、みんなが詞の意味を理解しながら



宮地小の全校合唱の様子

ら歌っているような様子が見られ、ほのぼのとした気持ちになりました。

最後の全校合唱では校長先生のピアノ伴奏で、「ピリッパ」と「帰りの会のサンバ」が聞けました。

また、池田中では、29日に中央公民館で合唱コンクールが行われ、どの学年もみんなが真剣に取り組んでいる素晴らしい姿や緊張感が客席まで伝わってきました。

31日には体育館で合唱祭が行われ、9・10・11組のハンドベル演奏が始まって、各学年の優秀学級の発表がありました。

3年生全体合唱の「大地讃頌」、全校合唱の「瑠璃色の地球」は聞きごたえがありました。



池田中2年生の合唱コンクールの様子

第32回池田町文化祭

文化の秋を迎え、11月2日～3日に第32回池田町文化祭を開催しました。中央公民館や各地区公民館で、普段から練習したり学習したりしている生涯学習の発表の場として、民謡、詩吟、舞踊、ダンスなどの芸術部門と絵画、書道、陶芸、手芸などの展示部門でそれぞれが披露されました。



展示物の前での家族づれの様子

また、小中学生の絵画や書道などを中央公民館の廊下と各部屋で展示を行いました。大人の作品の展示と相まって会場はいつになく賑わっていました。小中学校の展示物の前では、作品と子ども

と一緒に記念撮影する家族づれの光景があちらこちらで見受けられました。今回は土曜日の夜の9時まで閲覧時間を延長し、仕事などで日中見に来られない方たちにも見て頂けるようになりました。

今年は2日間とも秋晴れのさわやかな天候に恵まれ、例年より多くの来場者があり、作品を出展した人、舞台上で披露した人、来場した人みなそれぞれが芸術の秋を満喫した2日間でした。

県教育委員会連合会研究総会

11月8日、恵那文化センターにおいて県市町村教育委員会連合会研究総会が開催され、池田町・養基組合教育委員会10名で出席しました。

今回の研究総会は、「次代を担う人づくりを考える」がテーマとなっており、人口減少と高齢化の中での教育の役割を、改めて考える機会になりました。

講演会では、「人生100年時代を生きる」を演題に、経産省統括調整官の江崎禎英氏から、「還暦を過ぎてからの人生がむしろ本番」「現在は100年に一度の大転換点」「叱るのではなく楽しさを見せるのが最大の教育」といった大変興味深い話が聞けました。

また、アトラクションでは全校生徒15名の串原中学校が中山太鼓の力強い演奏を聞かせてくれました。



串原中15名での中山太鼓の力強い演奏

今回から、代表教育委員会の実践発表の後、グループ別実践交流会が企画され、37グループに分かれて「目指す人材の具像」「人材育成のために地域社会はどうあるべきか」等についてディスカッションしました。

編集後記

この秋は、温暖化による海水温の上昇等により強い台風が頻発し、自然環境の変化を実感せざるを得ませんでした。

激しさを増す異常気象を反映し、イギリスでは、「地球温暖化」を「地球過熱化」、「気候変動」を「気候危機」と言い換えることにした新聞社が出てきたとの事です。

この先、より大きく変わるかもしれない自然環境に、それぞれの世代が知恵と行動力で立ち向かい、「瑠璃色の地球」をいつまでも守っていききたいものです。

本たよりについて、お気づきの点があれば、お知らせください。

編集担当：河村安泰・西川 昭

教育委員会の主な活動報告 令和元年8月～11月

日付	活動	場所
8月3日	池田スクールフォーラム	中央公民館大ホール
8月13～16日	学校閉庁日	各小中学校
8月20～22日	英語合宿	青少年研修センター
8月28日	南部校長会・教育委員会合同会議	中央公民館第3会議室
9月9日	池田町・養基組合合同教育委員会	中央公民館第3研修室
9月18日	池田中体育祭	池田中学校
9月19日	八幡小学校訪問	八幡小学校
9月24日	小学校運動会	各小学校
9月25日	池田中学校訪問	池田中学校
9月27日	養基・池田小学校訪問	養基・池田小学校
10月10日	池田町・養基組合合同教育委員会	中央公民館第3研修室
10月17日	宮地小学校訪問	宮地小学校
10月30日	南部校長会・教育委員会合同会議	中央公民館第3研修室
11月8日	市町村教育委員会連合会研究総会	恵那文化センター
11月14日	教育委員会だより編集会議	教育センター
11月15日	温知小学校訪問	温知小学校
11月19日	南部校長会・教育委員会合同研修会	京都府宇治田原町